

科学技術の潮流

(248)

JST 研究開発戦略センター

人工知能(AI)な画(2021-25年)

ど新興技術の急速な発で重要な政策課題とし展に伴い、科学技術とて位置付けた。

人・社会の関係がより海外も同様に、欧州では社会のステークホルダー間のパートナーシップに重点を置いた

方に変化している。専門分野を超えた「学際融合」と、産業界・市民などの参画による「共創」も不可欠にな

ってきた。日本ではこの多様な知の融合を「総合知」と名付け、あらゆる分野の知を活用し、複雑な社会課題に的確に対応していくことを目的に、第6期科学技術・イノベーション基本計

では研究分野間の深いなど複数セクターの参画を必須としたプロジェクトに取り組む。政治の役割や資金調達をも含む社会システム変革の研究にも注力する。都市政策を支援する。プログラムの成果は欧州連合(EU)のフェッショナルが実践的支援を行っていることが最大の特徴だ。また、スタートアップ創出によって研究成果の展開を加速しゲ

欧米も研究加速

欧州では例えば、スウェーデンが気候中立都市の実現をビジョンに掲げたバイアブル・シティプログラムを実施している。分野が交差するところに領域を強化が図られる仕掛けだ。

社会変革を促進する総合知

科学技術振興機構(JST)研究開発戦略センター
フェロー(STI基盤ユニット) 濱田 志穂

名古屋大学大学院環境学研究科修了。研究開発戦略センターでは、総合知、新興技術力バナンス、責任ある研究・イノベーションなどに関する調査・分析業務を担当。



海外の「総合知」の取り組み事例

解決すべき社会課題や未来ビジョンを起点とする事例

- 〈ファンディング・プログラム〉
- ▷スウェーデン バイアブル・シティプログラム
- ▷EU Horizon2020 “SOCIETAL CHALLENGES”
- 〈大学・研究所の取り組み〉
- ▷英オックスフォード大学 インパクトファイナンス・イニシアチブ
- ▷米スタンフォード大学 ドア・スクール・オブ・サステナビリティ

科学技術を駆動力にしてゲームチェンジを目指す事例

- 〈ファンディング・プログラム〉
- ▷米NSF コンバージェンス・アクセラレータープログラム
- ▷米NSF 国立AI研究拠点プログラム
- 〈大学・研究所の取り組み〉
- ▷英アラン・チューリング研究所
- ▷米マサチューセッツ工科大学(MIT) シュワルツマン・コンピューティング・カレッジ

デザインの違い

総合知に類する各国事例の共通点は、研究

・実践・教育の一体的な取り組みと、政策やファイナンスなどにおける既存の枠組みを変革することへの挑戦だ。目指すべき価値によって「いつ・どのよう」に総合知のアプローチを仕掛けるか、その設計が重要である。解決すべき社会課題の状況や駆動力となる科学技術の特性を見極めた、適切なデザインが求められる。

今や総合知のアプローチは、各国の背景や戦略を反映しながら、多く見られるようになった。日本社会が直面する課題と目指す方向性を見定め、息長く総合知に取り組むことが必要である。

(金曜日掲載)